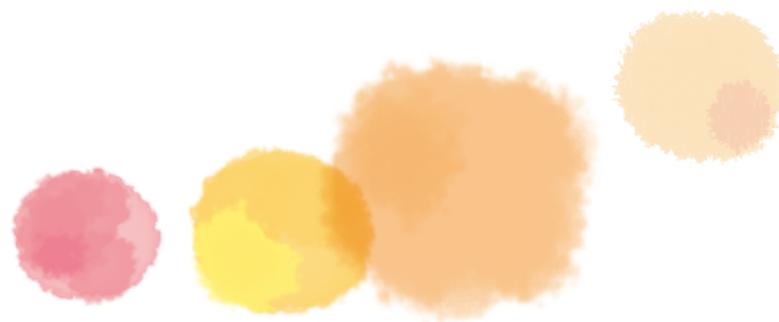


2021年9月19日

ふるさと創生大学の取り組みと課題

文化政策セミナー

「岩手&京都発の研究と地域間交流」分科会の情報交換



ふるさと創生大学 阿保和子

—震災がもたらした学びの場—

- ・池上惇京都大学名誉教授は通信制の大学院大学の創設を考え、全国各地の過疎地に学舎を創ろうと適地を求めていた。
- ・震災後、京都から遠野に通われていた池上先生と、「遠野早池峰ふるさと学校」校長をされていた藤井洋治先生との出会いが、縄文の里であり貴重な文化や豊かな自然を有している住田町土倉の地への「ふるさと創生大学」創設のきっかけになった。

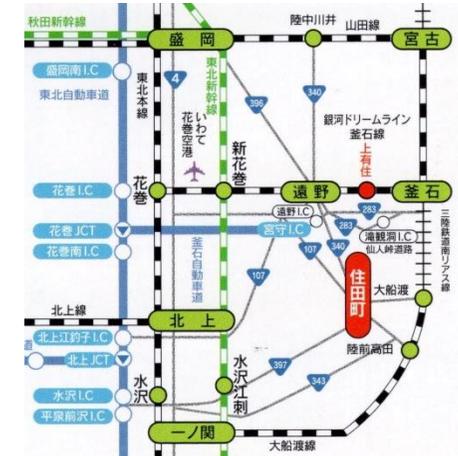


—開校からのあゆみ—

・2017年9月～2018年3月、遠野緑峰高校「拓心館」や五葉地区公民館を会場に「池上先生との語らいの場」が始まる。

・2018年5月3日 住田町上有住の五葉地区公民館で、『文化政策・まちづくり学校(通称:ふるさと創生大学)』の開校式・入学式・祝賀会が盛大に挙行された。

祝賀会では、大船渡の「おもてなし隊」の郷土料理が出され、上有住の獅子舞や、参加者も一緒の手踊りも繰り出すなど賑やかに執り行われた。



2018年度の取り組み①

毎月土日の開催とし、池上先生は京都から遠野経由の遠い道のりを、住田まで月2回の講座に毎月お出で頂いた。

土曜日の講座：

- ・「文化経営学・文化政策」(池上惇先生)
- ・「池上先生との語らい『千葉塾』」(体験発表と感想の交換)
- ・「地域構想学」(千葉修悦)

日曜日の講座：

- ・「体験学習論：理論」・「体験学習論：実習」(藤井洋治)
- 日曜日はAM10:00～PM4:00の講座であったこともあり、昼食は会員手作りのカレーライスやそば等を皆で食べ合い交流が深まった良い機会でもあった。

「体験学習」

- ・「ふるさと農園」を開園し、池上先生はじめ研究員が苗の植え付け・収穫などを体験。収穫祭もあり採れたての野菜などでの芋煮会を開催。



2018年度の取り組み②

「地域構想学」:

- ・「佐藤霊峰生誕100年祭シンポジウム」で一住田を育む風土「この道」の発表（作詞:千葉修悦、作曲:佐々木裕一）
- ・「山・里・海シンポジウム」を住田町役場の町民ホールで開催。
- ・「修学旅行」:「文化資本の経営シンポジウム」に参加(京都大学時計台記念館)

2019年2月:「住田学舎」落成式

- ・落成記念に遠野市の「平倉神楽」の奉納が行われた。
- ・「学習棟」では、大塚和子先生主宰の“コーラスまつぽっくり”による「この道」の合唱、新井(あらい)卓(たかし)監督の「おしらさま」の上映会が行われた。
- ・懇親会は「研究棟」で開催。地元の方々を交え、池上先生・金井萬造先生、新井監督たちと夜通し交流を深めることが出来た。



2019年度の取り組み①

大きな特色として、「研究会」を発足。一人ひとりの持ち味が形となり「自ら学ぶ」という基盤が確立し多様な取り組みが展開される契機となった。

また、学舎が完成したことにより、さらに充実した講座を開催することが出来るようになってきた。

【研究会】

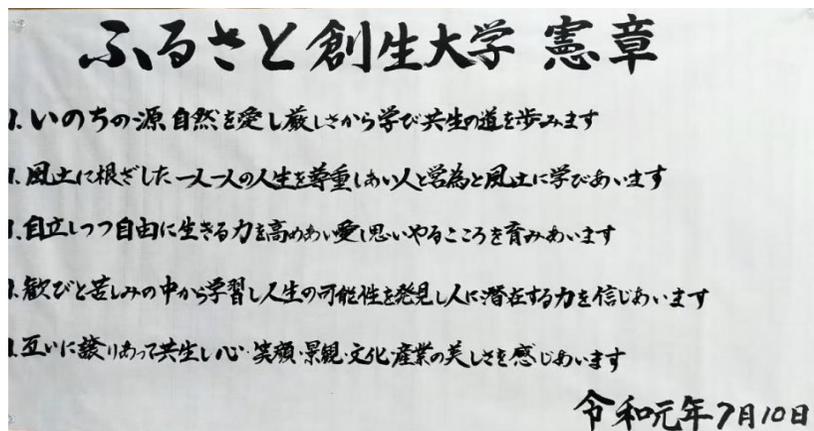
- ・文化資本研究会(池上惇先生)
- ・震災まちづくり学研究会(金井萬造先生)
- ・有機農業研究会(藤井洋治)
- ・地域構想学研究会(千葉修悦)
- ・書道研究会(阿保和子)
- ・佐藤霊峰研究会(佐藤安子)
- ・農と食の研究会(岸本直美先生)
- ・お笑い研究会(伊藤圭子)
- ・マジック研究会(菊地長)
- ・社会福祉研究会(佐藤勝幸)



2019年度の取り組み②

【主な取り組み】

- ・「ふるさと創生大学憲章」制定 (2019年7月10日)
- ・演奏会 —マンドリン・ギター・大正琴—
- ・「食文化を感じあう」シンポジウム(岸本直美先生他)
- ・「地域を生きる営みの継承」シンポジウム(池上惇先生他)
- ・講演「ちりめん細工の世界」(西畑和美先生)
- ・講演「世界の眼で見る地域像」(ハーヴェーシャピロ先生)
- ・「学びあい 育ちあい」シンポジウム(池上惇先生他)
- ・「地域構想の眼とこころ」シンポジウム(池上惇先生・大塚和子先生・千葉修悦)
- ・「農と漁と食文化」シンポジウム(岸本直美先生・金井萬造先生・横田幸子先生・藤岡純一先生・菊池貴久子先生他)



2019年度の取り組み③

- ・「ここで、こうやって、生きてきた」シンポジウムー生き方に学ぶー(体験発表)
- ・“修学旅行”「文化資本の経営シンポジウム」(於:京都大学時計台記念館)
- ・「書道講座」9月から実施(池上先生はじめ地元の方や研究員有志が参加)
上有住郵便局への展示、マイや書道展への出品・・・etc
- ・2019年12月11日 「一般社団法人文化政策・まちづくり学校」設立

＜役員＞

代表理事 千葉修悦

副理事 藤井洋治

常務理事 阿保和子

理事 紺野貴代子・佐藤勝幸

監事 小向三枝子

* 役員の仕事分担も確立し、スムーズな運営が出来るようになった。

(特に、事務局を若い佐藤勝幸が担当することによりSNSの発信、ZOOMによるリモート交流が可能になった。)



- ・ホームページ(ブログ)開設 URL:<http://furusatosousei.sblo.jp/>

2020年度の取り組み①

- ・すべての講座を一般市民から理解してもらう為に、**開放講座**として行うこととした。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、人の移動や集まりが制限され、当初予定していた講座の計画は大幅な見直しを余儀なくされた。
- ・「ここに来ると不思議に元気が出るんです、楽しみなんです」と話してくれる池上先生も京都から来られなくなった。
- ・新たな交流として、**リモートでの講座や研究会**が始まった。
- ・住田町の「**町づくり事業補助金**」を申請し、年間30万円の活動資金を受給することが出来た。(2020年度～2022年度の3年間受給予定)



2020年度の取り組み②

【主な取り組み】

- ・「ふるさと農園」でのかぼちゃやサツマイモ等の苗の植え付け、草取り作業、収穫
- ・「梅エ～田んぼ」での田植え、稲刈り、はせかけ、脱穀
- ・「哲学の道」看板・指導票の製作、散策
- ・「えんがわ産直」の開催で、収穫した野菜・米などを販売
- ・子どもの夏休み「書道教室」「作品づくり教室」の開催
- ・「味噌づくり」
- ・「奄美と土倉を考える」シンポジアムの開催(テキスト:『長生きがしあわせな島〈奄美〉』富澤公子著より)
- ・「書道講座」の開催 * 夏休み以降、子どもたちも参加しており世代間交流となっている。
- ・「被爆体験発表」『戦争ほど人間を不幸にするものはないー1945年8月6日の真実』(遠野市 伊藤宣夫先生)



2021年度の取り組み①

私たちはコロナ禍にあって、耐えること、待つことで思いを深めさせ、行動のエネルギーを溜めているように思う。一つひとつの事業を、ていねいに着実に推し進めていくことで、様々な領域での展開の礎が築かれていくことを信じて今年度の取り組みを進めている。

【主な取り組み】

- ・『文化資本論入門』『学習社会の創造』による勉強会の開催(毎月)

- ・「シニア自然大学校」〈地球環境『自然学』講座〉のリモート講座受講

テーマ: 森里海のつながりーいのちの循環
(2021年4月～2022年2月までの20回開催)

2021年度 カリキュラム

《講演会》

企画・監修: 田中 克 京都大学名誉教授

回数	開催日	講師	演題
1	2021 4/10	服部 英二 地球システム・倫理学会会長顧問	地球倫理と未来世代の権利
2	4/24	江島 美央 鹿島市ラムサール条約室主査	佐賀県鹿島市干潟と森里川海
3	5/8	浮田 正夫 山口大学名誉教授	山口県樫野川流域の森里川海
4	5/22	藤原 勝紀 京都大学名誉教授	臨床心理士の世界とその今日的役割
5	6/12	菅野 正巳 NPO法人シマフクロウ・エイド代表理事	シマフクロウの保全と森里川海のつながり
6	6/26	岡本 貴久子 奈良県立大学ユーラシア研究センター客員研究員	本多静六の森づくり: 吉野山の地域再生を目指して
7	7/10	八木 信行 東京大学教授	世界の漁業資源と管理の動向
8	7/24	竹田 晋也 京都大学教授	ラオス・ミャンマー山地民の暮らしと文化
9	8/28	中根 史郎 中根庭園研究所 所長	伝統的日本庭園について
10	9/11	山崎 哲秀 グリーンランド冒険家	グリーンランドの気象と先住民族
11	9/25	長崎 慶三 高知大学教授	身近なウイルス学の世界
12	10/16	池上 惇 京都大学名誉教授	学習社会の創造
13	10/30	鈴木 博晶 鈴鹿かまぼこ(株)社長	神奈川県小田原の森里川海
14	11/13	牧野 宗則 風鈴丸 木版画家	木版画の世界: 有明海と富士山に魅せられて
15	11/27	藤崎 憲治 京都大学名誉教授	昆虫を通してみた地球温暖化
16	12/11	千葉 知世 大阪府立大学准教授	海洋ゴミ問題と私達の未来
17	2022 1/15	つる 祥子 豊かな球磨川を取り戻す会事務局長	荒瀬ダム撤去と地域社会創生
18	1/29	丹治 富美子 詩人・作家	いこしえに学ぶー大自然の中で美しく生きる
19	2/5	川合 真一郎 神戸女学院大学名誉教授	豊かさとはー世界の水問題を通して考える
20	2/26	田中 克 京都大学名誉教授・舞根森里海研究所長	「森に暮らして海を想い、行動する」ー地球環境自然学講座7年の先に広がった世界

2021年度の取り組み②

- ・「書道講座」(毎月開催)
- ・「ふるさと農園」での苗植え(サツマイモ、ヤーコン)
- ・「梅エ～田んぼ」での田植え、稲刈り
- ・山菜採り(ウド、シドケ、ワラビ、ウルイ)
- ・特産品「さつまいもジャム」、「メープルエールー住田・森のしずくー」、「ズッキーニジャム」、「リンゴと山ぶどうのミックスジュース」の開発
 - ・川遊び「魚の手づかみ体験」(7月31日実施 約60名の参加)
 - ・「自由研究」消しゴムハンコ作り等々
 - ・岩手大学・五味教授、陸前高田市の一般社団法人トナリノ様との情報交換
(トナリノ様の情報により「ふるさと創生大学」のリーフレット作成検討)
 - ・池上先生の米寿記念祝賀会リモート参加



2021年度の取り組み③

【今後の取組み予定】

- ・文化政策セミナー「岩手 & 京都発の研究と地域間交流」情報交換会へのリモート参加、「ふるさと創生大学の取組みと今後の課題」発表（9月19日）
- ・ふるさと創生大学のリーフレット作成(10月3日までに完成予定)
- ・ふるさと創生大学「**大学祭**」開催(10月3日)
 - * 佐藤霊峰朗読劇 * えんがわ産直 * ミニコンサート * 図書祭り
 - * 「哲学の道」の散策 * 写真・書道・木工品等の展示……
- ・「ふるさと創生大学ドキュメンタリー映画」の製作
- ・「ふるさと農園」での収穫
- ・「梅エ～田んぼ」での稲刈り、脱穀。
- ・「味噌づくり」他、「豆腐づくり」「納豆づくり」等の試み

この自然豊かな気仙川の源流の地で、一人ひとりが「メダカの学校」の如く、生徒であり先生でもありながら、「学びあい育ちあい」の精神で「ふるさと創生大学」を創り上げていきたい。

学びあい 育ちあい

ご清聴、ありがとうございました



ふるさと創生大学
阿保 和子